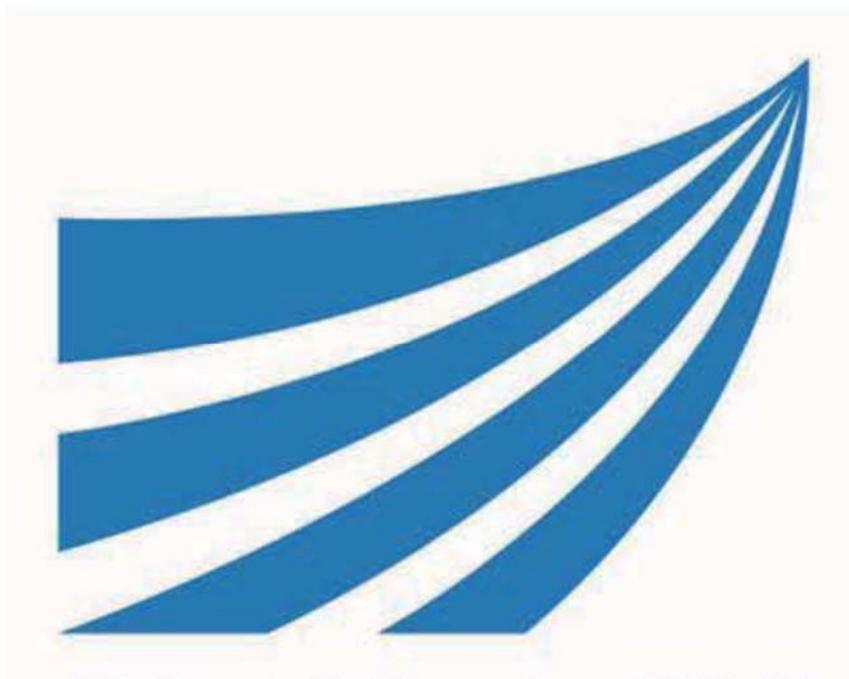


文部科学省認可通信教育

放送大学大学院
文化科学研究科
文化科学専攻

博士後期課程 授業科目案内

2019年度第2学期



【目次】

- 大学院博士後期課程
 - 授業科目案内の利用にあたって・・・・・・・・・・ 1
- 生活健康科学プログラム・・・・・・・・・・ 2
- 人間科学プログラム・・・・・・・・・・ 3
- 社会経営科学プログラム・・・・・・・・・・ 6
- 人文学プログラム・・・・・・・・・・ 8
- 情報学プログラム・・・・・・・・・・ 11
- 自然科学プログラム・・・・・・・・・・ 15

大学院博士後期課程授業科目案内の利用にあたって

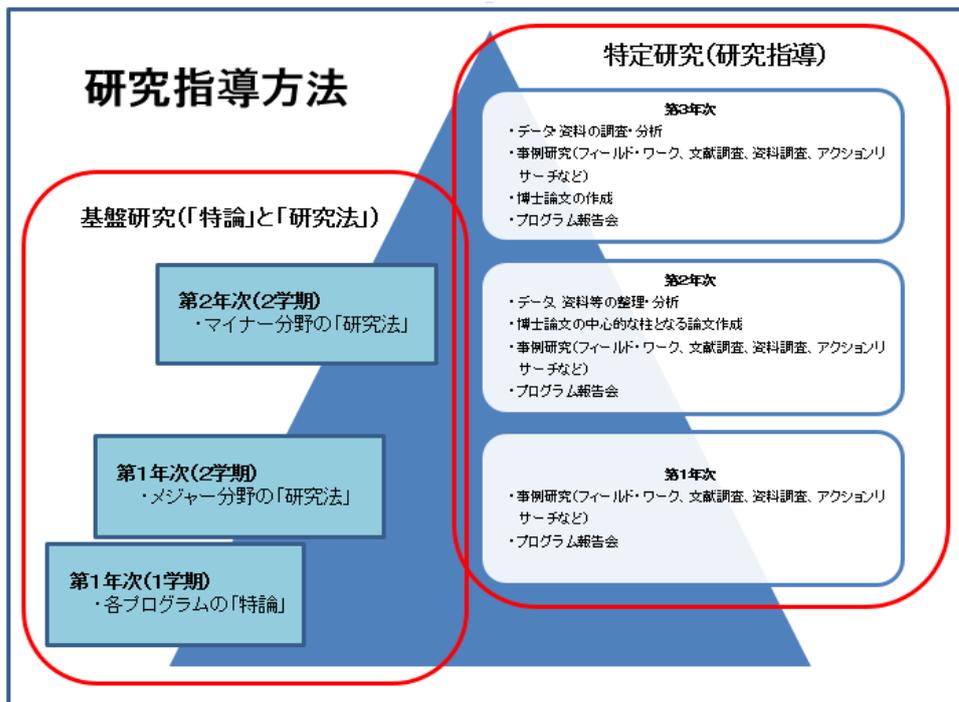
この冊子は、2019年度第2学期の授業科目概要などを記載しています。
科目の登録は、この『授業科目案内』と『科目登録申請要項』の両方を必ずご覧になり、
注意事項および記入方法をご確認のうえ、行ってください。

1. 履修モデル

大学院博士後期課程では、以下の図のとおり、

- ・第1年次1学期に所属プログラムの「特論」、
- ・第1年次2学期に所属プログラムの「メジャー分野の研究法」、
- ・第2年次2学期に所属プログラム以外の「マイナー分野の研究法」、
- ・第1年次から第3年次にかけて「特定研究」

を履修することとしています。



2. 2019年度第2学期に科目登録する科目について

2014年度～2016年度入学者：科目登録の必要はありません。

2017年度入学者：副研究指導教員の担当するマイナー分野の「研究法」を未修得の方のみ、科目登録してください。修得済の方は科目登録の必要はありません。

2018年度入学者：副研究指導教員の担当するマイナー分野の「研究法」を登録してください。

2019年度入学者：主研究指導教員の担当するメジャー分野の「研究法」を登録してください。

生活健康科学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9310010) 生活科学研究法 吉村 悦郎 教授 下夷 美幸 教授 奈良 由美子 教授 川原 靖弘 准教授	2	<p>本科目は、現代生活の特性および課題を理論的かつ実践的に理解・分析・検討する力量を獲得することを目標としている。生活は人間の環境適応としての社会的装置であり、その基本的単位は戦略的に設定される。生活を分析・検討するには、「家族」その他の生活基礎単位と「食品」に代表される生活資源ならびに諸環境の相互作用に関する科学的理解、環境からの外乱すなわち「生活リスク」、生活者が接し利用する「生活環境情報」を扱うことが有効である。この授業では、まず、生活基礎単位と生活資源、生活環境ならびに生活リスク、生活環境情報について、その実態と理論的アプローチならびに研究において基礎となる方法・技法を習得する。そのうえで、現代の家族、食品、生活リスク、生活環境情報の扱い方をめぐる課題抽出と解決方策の検討を行うために、受講者同士のディスカッションを実践してもらう。</p>
(9310029) 健康科学研究法 井出 訓 教授 石丸 昌彦 教授 田城 孝雄 教授 山内 豊明 教授 戸ヶ里 泰典 教授 関根 紀子 教授	2	<p>健康や保健医療に関する研究には、いくつかのアプローチ・研究方法が存在する。本科目では、健康領域での研究のアプローチの基本について、その概略と近年の動向を再確認する。それらを念頭に、オムニバス形式をとり複数のテーマのもと文献等の講読を進め議論をすることによって、各分野での理論的・実践的アプローチについて検討する。その際、実践や政策の場にどのように還元したらいいのか、その方法についての考察を深める。最終的に、それらを自身の研究にどのように活用しうるのかについて、討論を通じて探索する。</p> <p>本科目の目標は、自身の研究計画・研究テーマをもとに、研究遂行のための実践的・専門的スキルを幅広く習得することで、自律した研究者に向けた素地を涵養することにある。</p>
(9310037) 社会福祉学研究法 大曾根 寛 教授 山田 知子 教授	2	<p>子育て支援、高齢者の生活支援、障害のある方への支援、職業リハビリテーション、利用者の権利擁護など、実践への関与と政策分析に基づいた実証的研究の方法を学び、それらに関する研究論文の作成のための基礎的能力を習得する。また、研究成果をいかに実践と政策の場にかえせばいいのか、その手法についても学ぶ。</p>

人間科学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9320016) 教育学研究法(1) 「教育行政学研究法」 小川 正人 教授	2	本科目の前半では、戦後の教育行政学研究における重要な争点、それに係わる研究動向と研究方法等に関連の文献を使って講義と講読により教育行政研究の理論、研究方法を体系的に学ぶ。後半では、受講生が博士論文で取り組もうとしている研究テーマ・課題に関連付けて先行研究の内容や研究方法等を体系的に検討し、受講生が取り組む博士論文の研究テーマ・課題の今日的意義づけを深め論文構想の見通しを図れるよう指導する。
(9320024) 教育学研究法(2) 「教育社会学研究法」 岩永 雅也 教授	2	本講の前半では、教育社会学研究の基礎概念と基本課題について体系的に理解した上で、社会的な営みとしての教育の意味を教育段階に沿いつつ理解していくとともに、最近の教育状況とそれを巡る環境の変化および今後の課題や展望について検討する。 本講の後半では、教育社会学に特有な客観的現実認識の手法としての教育調査について理解することを目的に、多様な課題と形状およびプロセスを持つ教育事象から、定量的あるいは定性的な変数を抽出し、その値や形状を測定してそれら相互の関係性を解釈する一連のプロセスを学ぶ。正確で正当な手続きに基づく教育調査は、教育の分野での科学的、実証的な研究を的確なエビデンスを基に進めていくにあたっては必要不可欠の要素である。したがって、本講では、調査票作成、サンプリングの試行といった実践的メソッドに関して理解した上で、調査の結果得られた種々のデータを実際に解析し、そこからどのような法則性や定律を導き出すか、あるいはどのように既存の理論に基づく仮説を検証していくか、主に量的データに関して、その分析・解析と意味内容の解釈について学ぶ。
(9320075) 教育学研究法(4) 「教育内容・方法学研究法」 田中 統治 教授	2	本科目の前半では、教育内容・方法学の基礎概念と研究動向について体系的に検討し、とくに時代・社会の変化と関連づけて教育内容・方法研究上の立場や課題の相違点を理解する。後半では受講生が博士論文において解明しようと試みている研究課題と関連させて実証研究や実践研究の成果を検討して、博士論文の作成に向けて教育内容・方法学に関する客観的な資料の収集、分析、及び解釈の方法を身につける。
(9320091) 教育学研究法(5) 「生涯学習研究法」 岩崎 久美子 教授	2	生涯学習論の扱う領域は幅広く、生涯にわたる学習のあらゆる領域が対象となる。その中から、本科目の前半では、主に成人教育学の理論を取り上げ、関連文献を用いて講義と講読により、基礎概念、研究方法、論文構成などを体系的に理解・検討する機会を提供する。後半では、受講生が構想する博士論文の先行研究として各自が重要と考える論文の選択と発表を求め、併せて、博士論文の構想についての収斂と具現化に向けた検討と討議を行う。
(9320164) 教育学研究法(6) 「高等教育研究法」 苑 復傑 教授	2	本科目の前半では、戦後の高等教育研究に係る重要な論点、研究動向と研究方法等に関連の文献を使って講義と講読により高等教育研究の理論、研究方法を学ぶ。後半では、受講者の博士論文で取り組もうとしている研究テーマ・課題に関連付けて、先行研究の重要文献や研究動向、研究方法を体系的に検討し、自らの研究テーマ・課題を深化し、論文作成構想の基盤を構築する。
(9320040) 心理学研究法(1) 「教育臨床心理学研究法」 倉光 修 教授	2	教育臨床心理学に関する博士論文の作成に当たっては、さまざまな研究方法の中でも、その基盤となる実践事例の検討を行う事例研究について理解を深める必要がある。この授業では、教育臨床心理学分野におけるさまざまな対象やアプローチについて、事例を記述した文献講読を行い、討議を行う。それにより、最新の研究理論と研究動向を理解し、自らの研究テーマを深化し、研究方法を精緻化し、博士論文を作成するための基盤を構築する。

人間科学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9320059) 心理学研究法(2) 「臨床心理学研究法」 小野 けい子 特任教授	2	臨床心理学に関する博士論文の研究テーマについて、関連する重要文献の体系的な文献講読を行い、討議を行う中で、最新の研究理論と研究動向を理解し、研究方法を習得すると共に、自らの研究テーマを深化し、研究方法を精緻化し、博士論文作成のための基盤を構築する。
(9320067) 心理学研究法(3) 「社会心理学研究法」 森 津太子 教授	2	社会心理学の基礎的な理論、最新の研究動向、主な研究手法について、文献講読を通じて学ぶ。また、各自の研究テーマに沿ってレポートを作成・発表し、受講生全員で討議を行う。このようなプロセスを通じて、社会心理学についての認識を深めるとともに、自らの研究を適切に計画、実施、分析する能力を涵養する。
(9320083) 心理学研究法(4) 「発達心理学研究法」 向田 久美子 准教授	2	発達心理学における基礎的理論や最新の研究動向、種々の研究方法について、文献講読やレポート発表、討論を通して学ぶ。そのプロセスを通して、受講者の研究テーマの絞り込みと研究方法の精緻化を図り、博士論文執筆のための基盤作りをする。
(9320105) 心理学研究法(5) 「教育心理学研究法」 進藤 聡彦 教授	2	教育心理学の基礎的な理論について学ぶとともに、最近の教育実践の動向や教育心理学の研究動向を文献講読等を通して学ぶ。また、各自の研究テーマに沿ってレポートを作成・発表し、受講生全員で討議を行う。このようなプロセスを通じて、現代の教育や教育心理学の研究に関する深い認識と自ら研究計画を立案し、結果を適切に分析する能力を涵養する。
(9320113) 心理学研究法(6) 「心理臨床学研究法」 大山 泰宏 教授	2	この授業では、研究に必要な資料収集や検索の方法を身につけるとともに、心理臨床学の研究法の広がりとは本質に関して理解するために、さまざまな研究法による論文を精読するとともに、自らの研究計画を立て実施しつつ、研究論文を執筆することを通して、研究法を習得する。
(9320121) 心理学研究法(7) 「心理臨床学研究法(2)」 大場 登 教授	2	心理臨床学研究法について、古典的文献・最新の研究動向等の文献講読や自らの事例研究・レポート発表、討論を通して学ぶ。そのプロセスを通して、受講者の研究テーマの絞り込みと研究方法の精緻化を図り、博士論文執筆のための基盤作りをする。
(9320130) 心理学研究法(8) 「臨床心理学研究法(2)」 小林 真理子 教授	2	臨床心理学に関する博士論文の研究テーマについて、関連する重要文献の体系的な文献講読を行い、討議を行う中で、最新の研究理論と研究動向を理解し、研究方法を習得すると共に、自らの研究テーマを深化し、研究方法を精緻化し、博士論文作成のための基盤を構築する。

人間科学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9320148) 心理学研究法(9) 「臨床心理学研究法(3)」 佐藤 仁美 准教授	2	心理臨床(主として表現療法・芸術療法等)に関する原著論文等の講読・討議を中心とした演習を行う。古典的文献・最新の研究動向等の文献講読や自らの事例研究・レポート発表、討論を通して学ぶ。そのプロセスを通して、受講者の研究テーマの絞り込みと研究方法の精緻化を図り、博士論文執筆のための基盤作りをする。
(9320156) 心理学研究法(10) 「認知心理学研究法」 高橋 秀明 准教授	2	認知心理学の基礎的理論、研究方法、および最新の研究動向について、文献講読やレポート発表を通して学ぶ。さらに、認知心理学の応用的な側面という意味で、受講生の各自の研究テーマと認知心理学との関わりについて、そしてデータ収集計画について、発表と全員での討議を行う。以上のプロセスを通して、受講生が自らの研究テーマを絞り込むことができるようにする。

社会経営科学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9330011) 社会・経済研究法(1) 「経済学研究法」 坂井 素思 教授	2	この講義では、社会経済組織上の重要な考え方である、社会関係資本の基礎的な視点を獲得するために、R.パットナム『Bowling Alone (孤独なボウリング)』およびこの題材に関する文献等を取り上げ、ソーシャル・キャピタル概念、経済社会関係としての信頼、互酬・交換関係についての検討及び研究方法の指導を行う。授業方法は一部講義形式も採用するが、全体として演習方式によるものとする。英文テキスト・文献等の講読とグループ討議を学生と教員との間で繰り返すことによって、展望の方法、論理的思考、統計資料の分析などの方法を身につける。
(9330020) 社会・経済研究法(2) 「都市社会学研究法」 森岡 清志 特任教授	2	この授業では、博士論文へとまとめ上げていくうえでの基本的な考え方、まとめ方、留意点、課題等について、都市社会学の重要文献を中心とした講読と批判的検討を通じて学んでいく。原則として演習形式(受講者による輪番での報告と討議)で行う。
(9330038) 社会・経済研究法(3) 「社会学研究法」 北川 由紀彦 教授	2	この授業では、社会調査(特に質的な調査)によって得られたデータを分析し博士論文へとまとめ上げていくうえでの基本的な考え方、まとめ方、留意点、課題等について、社会学の都市エスノグラフィーを中心とした各種の調査研究報告書の読解を通じて学んでいく。原則として演習形式(受講者による輪番での報告と討議)で行う。
(9330046) 社会・経済研究法(4) 「人的資源管理研究法」 原田 順子 教授	2	人的資源管理研究において基盤となる方法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいて人的資源管理研究の蓄積を展望する。 ② 各自の研究関心の現段階における研究状況を把握し問題点を探究する。 ③ 研究テーマ・課題の意義づけを深め、論文構成の見通し・研究手法について基礎力を育成する。
(9330054) 社会・経済研究法(5) 「農村開発論研究法」 河合 明宣 特任教授	2	農村開発論は、課題解決志向が強い地域研究といえる。受講生が専攻する学問分野(ディシプリン)に基づいて対象地域の現状を把握する方法の概略を説明する。演習において、対象地域に関連する2次資料の収集と現地調査を通して開発課題を鮮明にし、課題解決の具体策をまとめていくことになる。受講生が博士論文で取り組もうとしている研究テーマ・課題を明確にする方法を身につけるために現地調査を踏まえて報告書を作成し、各々の報告書の合同評価を行う。
(9330062) 社会・経済研究法(6) 「企業会計研究法」 齋藤 正章 准教授	2	通常、企業会計というと「会計制度」に関する研究が一般的であるが、本講義では経営をコントロールするのに適した会計とは何かを探求することを目的とする。企業は様々な利害関係者との複雑な契約関係から成り立っていると考えられるが、外部の利害関係者と会計のあり方、内部の利害関係者と会計のあり方をそれぞれ議論・検討する。最後に外部報告会計と内部報告会計との融合と会計による経営のコントロールについて総括する。
(9330089) 社会・経済研究法(7) 「社会経済学研究法」 松原 隆一郎 教授	2	社会経済学とは、市場と「人間関係資本」との関係に焦点を当て、「文化資本」「自然資本」「金融資本」とのかかわりを考察する経済学である。本講義では、それぞれの資本概念にかかわる基礎文献を取り上げ、研究方法の指導を行う。授業は一部講義形式で行うが、一般には演習方式によるものとし、学生と教員がテキスト・文献等の講読、グループ討議を通じて、博士論文執筆の方法、論理展開、統計資料の分析などの習熟を目指す。

社会経営科学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9330100) 社会・経済研究法(9) 「環境・エネルギー研究法」 迫田 章義 教授	2	環境工学および環境科学の分野における利用可能なデータの収集・分析等を重ね、博士論文へとまとめ上げていくうえでの基本的な考え方、オリジナリティーのある課題の発見、投稿論文となり得るまとめ方、説得力のあるプレゼンテーション等について学んでいく。原則として受講者による輪講と討議を行う。
(9330119) オペレーションズ・マネジメント研究法 松井 美樹 教授	2	オペレーションズ・マネジメントおよびサプライチェーン・マネジメント分野の研究のための基盤を構築し、必要な方法論について習得する。 ①各自の研究テーマ・課題に基づいてオペレーションズ・マネジメントおよびサプライチェーン・マネジメント分野の研究の既存文献をレビューする。 ②各自の研究状況を把握し、問題点を探究する。 ③研究課題の意義を明確化し、分析に必要な研究手法の基礎力を育成する。
(9330070) 公共政策研究法 「政治学・国際政治学研究法」 山岡 龍一 教授 原 武史 教授 白鳥 潤一郎 准教授	2	公共政策研究における基礎的な方法について、理論と実践の両方に関して研究指導を行う。各教員が定めたテキストを学生が読み、それに基づいた討論や発表をするといった作業を中心にすえた指導をすることで、政治学、歴史学(思想史)、政治理論、国際政治の研究における基本的方法と理論を学生が習得できるようにする。公共政策研究を自主的に進めていくために必要な、問題設定や研究法の選択に関する知識、先行研究の調査・検討法、文献収集や資料整理等の方法等もあわせて教授する。公共的な問題の研究を、専門的な学問性と社会的意義の、両方の妥当性がある方法で遂行することの意味を、学生に理解させる。取り上げるテキストの選択については、受講する学生との相談結果を考慮する。
(9330127) 公共政策研究法 「法学研究法」 柳原 正治 教授 李 鳴 教授 児玉 晴男 教授	2	公共政策研究における基礎的な方法について、理論と実践の両方に関して研究指導を行う。各教員が定めたテキストを学生が読み、それに基づいた討論や発表をするといった作業を中心にすえた指導をすることで、法学、ことに、民法・商法、知的財産法、国際法の研究における基本的方法と理論を学生が習得できるようにする。公共政策研究を自主的に進めていくために必要な、問題設定や研究法の選択に関する知識、先行研究の調査・検討法、文献収集や資料整理等の方法等もあわせて教授する。公共的な問題の研究を、専門的な学問性と社会的意義の、両方の妥当性がある方法で遂行することの意味を、学生に理解させる。取り上げるテキストの選択については、受講する学生との相談結果を考慮する。

人文学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9340092) 哲学・思想学研究法(1) 「哲学・日本思想研究法」 魚住 孝至 教授	2	哲学・日本思想研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいてジャンル・時代ごとの研究状況を展望し、哲学・日本思想研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探究する。 ②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③時代・領域ごとの文献の特性を理解し、研究テーマに即した原文読解力を向上させ、研究論文を作成する構想力と表現力を涵養する。
(9340017) 文学・言語学・美学研究法(1) 「日本文学研究法」 島内 裕子 教授	2	日本文学研究において基盤となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいてジャンルや時代ごとの研究状況を把握し、文学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況の問題点を探求する。 ② 研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を強化する。 ③ 時代ごとの作品の特性を理解し、研究テーマに即した原文読解力を向上させ、研究論文を作成する構想力と表現力を涵養する。
(9340025) 文学・言語学・美学研究法(2) 「英語圏文学研究法」 宮本 陽一郎 教授	2	英語圏文学研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいてジャンル・時代ごとの研究状況を展望し、英語圏文学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ② 研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③ 言語・文化の変遷などによる時代ごとの資料的特性を理解し、研究テーマに即した資料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。
(9340033) 文学・言語学・美学研究法(3) 「言語学研究法」 滝浦 真人 教授	2	言語学研究において必須となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいてジャンル・時代ごとの研究状況を展望し、言語学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ② 研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を涵養・向上する。 ③ 言語や時代ごとの資料的特性を理解し、研究テーマに即した資料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を確かなものとする。
(9340041) 文学・言語学・美学研究法(4) 「美学研究法」 青山 昌文 教授	2	美学研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいてジャンル・時代ごとの研究状況を展望し、美学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探究する。 ② 研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③ 時代・地域ごとの資料的特性を理解し、研究テーマに即した資料読解分析力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。
(9340106) 文学・言語学・美学研究法(5) 「コミュニケーション学研究法」 大橋 理枝 准教授	2	コミュニケーション学研究において必要となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいてジャンルごとの研究状況を展望し、コミュニケーション学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ② 研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成する。 ③ 時代ごとの研究動向の特徴を理解し、研究テーマに即した文献読解力を向上させ、研究論文を作成する構想力を養成する。

人文学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9340114) 文学・言語学・美学研究法(6) 「中国語学研究法」 宮本 徹 准教授	2	中国語学研究において必須となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいてジャンル・時代ごとの研究状況を展望し、中国語学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ② 研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を涵養・向上する。 ③ 時代や地域ごとの資料的特性を理解し、研究テーマに即した資料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を確かなものとする。
(9340050) 歴史学・人類学研究法(1) 「日本史学研究法」 杉森 哲也 教授	2	日本史学研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいて時代・地域ごとの研究状況を展望し、日本史学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ② 研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③ 時代・地域ごとの史料的特性を理解し、研究テーマに即した史料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。
(9340076) 歴史学・人類学研究法(3) 「文化人類学研究法」 稲村 哲也 特任教授	2	文化人類学研究に必要となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいて地域・民族ごとの研究状況を展望し、文化人類学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して課題を明確にし、それを探求する。 ② 研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を向上させる。 ③ 地域・民族・時代ごとの史料・民族誌の特性を理解し、研究テーマに即した資料読解力を向上させるとともに、現地調査のスキルを養い、研究論文を作成する基礎力を確かなものとする。
(9340010) 歴史学・人類学研究法(4) 「日本古代・中世史研究法」 近藤 成一 教授	2	日本古代・中世史研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいて時代・地域ごとの研究状況を展望し、日本古代・中世史研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ② 研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③ 時代・地域ごとの史料的特性を理解し、研究テーマに即した史料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。
(9340122) 歴史学・人類学研究法(5) 「韓国朝鮮史学研究法」 須川 英徳 教授	2	韓国朝鮮史学研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいて時代・地域ごとの研究状況を展望し、韓国朝鮮史学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ② 研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③ 時代・地域ごとの史料的特性を理解し、研究テーマに即した史料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。
(9340130) 歴史学・人類学研究法(6) 「西洋史学研究法」 河原 温 教授	2	西洋史学研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいて時代・地域ごとの研究状況を展望し、西洋史学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ② 研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③ 時代・地域ごとの史料的特性を理解し、研究テーマに即した史料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。

人文学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9340149) 歴史学・人類学研究法(7) 「社会人類学研究法」 大村 敬一 教授	2	社会文化人類学の研究に必要となる方法・技法について習得する。 ① 各自の研究関心に基づいて地域社会ないし民族ごとの研究状況を展望し、社会文化人類学研究の蓄積を学説史的に把握するとともに、研究主題の理論的意義を把握して問題点を明確にする。 ② 現地研究の技法を習得することにより、研究上の諸側面にわたる基礎力と応用力を涵養する。 ③ 研究テーマに即した論理展開力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を確実なものとする。

情報学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9360018) 情報学研究法 「人間社会情報学研究法」 青木 久美子 教授	2	ヒトと情報との関係性、及び、社会と情報との関係性を研究するにあたって重要であると思われる視点を紹介するとともに、受講生が、学際的な視点から問題意識を持ち、自身の博士論文研究におけるデータの収集・分析・理論化に必要な基礎的知識を習得し、研究プロセスを具体的にイメージできるようにすることを目標とする。
(9360026) 情報学研究法 「生体情報処理研究法」 秋光 淳生 准教授	2	数理情報研究において基盤となる脳の情報処理についての知見とそうした理論とモデルについて学ぶ。そのために必要な非線形力学と機械学習について学ぶ。こうしたモデルの動作についての理解に基づき、どのような工学的な応用がなされてきたのかについて調査を元に学ぶ。研究動向、研究手法について学び、そうした理論がどのように応用されてきたのかについて学ぶ。そして、受講生が取り組む博士論文の研究課題に関連した資料の調査や研究を行う。
(9360034) 情報学研究法 「知識情報処理研究法」 浅井 紀久夫 教授	2	学習や認識の研究において基盤となる知識情報処理の理論と研究動向、研究手法について、人間とコンピュータとのインタラクションを対象としたプロジェクトを通して体系的に学ぶ。データを取得するセンサ技術、多種のデータから情報を抽出したり分類したりする認識技術、人間の知覚特性に整合した情報可視化技法など、ヒューマンコンピュータインタラクションに要求される知識情報処理についての理解を深め、受講生が博士論文で取り組む研究に対して知識情報処理に基づく新たな視点と問題解決へのアプローチを探る。
(9360042) 情報学研究法 「認知情報科学研究法」 大西 仁 教授	2	ヒトの認知を情報処理の観点から解明するためには、物理的な測定や質問紙やインタビューといった調査だけでは不十分で、実験的手法やモデル化等の手法を駆使して一貫的な理論を構築する必要がある。そこで、そのような研究を自立して行うための基礎として、研究アプローチの理解、方法および技法の習得を図る。具体的には、受講生が取り組む研究テーマに関連する研究を題材にして、因果関係を明らかにするための実験法、実験結果を適切な形で数値化する尺度構成法、実験結果を説明・予測するモデル構築法について文献講読と演習・実習を行う。
(9360050) 情報学研究法 「学習環境デザイン学 研究法」 加藤 浩 教授	2	社会文化的アプローチによる学習環境のデザインの哲学・方法論・評価方法について学ぶ。まず、社会文化的アプローチとはいかなるもので、どのような歴史的経緯を経て発展してきたかを、他の学習理論との対比を通して学ぶ。次に、学習環境が満たすべき要件とそのデザインの方法論についていくつかの事例を通して検討する。さらに、それらの事例を通して、エスノメソロジー・活動理論・アクターネットワーク理論などの分析評価の枠組みについて理解を深め、学習環境デザインに対してどのような評価が可能かを検討する。
(9360069) 情報学研究法 「学習コンテンツ評価 研究法」 近藤 智嗣 教授	2	学習コンテンツを開発するためには、形成的評価と総括的評価が必須であり、その指標として、学習履歴、質問紙調査、行動分析などを取り上げる。授業では、データの取得から分析までを実践しながら学ぶ。また、行動分析では、視線を計測するアイトラッカーを使用して、その使用方法から分析までを実習する。さらに、受講生が取り組んでいる博士論文に関連して実験計画を立てられるようにする。

情報学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9360077) 情報学研究法 「メディアリテラシー研究法」 芝崎 順司 教授	2	情報を処理・発信・評価・識別する、いわゆるメディアリテラシーやその教育に関する諸問題の基礎概念や研究動向、研究方法等について学習する。そのため、前半は文献の講読とディスカッションを行う。後半は各自、メディアリテラシーに関する課題をたて、その課題解決を目指すための研究計画を作成し、発表とディスカッションによりその精緻化を図る。
(9360085) 情報学研究法 「計算機システム研究法」 鈴木 一史 教授	2	情報と計算の理論やコンピュータ上への実装と応用について学ぶ。そして、アルゴリズムや理論を応用して、2次元画像データや3次元データ等に対して、高度な探索、分類、判別などを行うシステムについて学ぶ。また、認識システム、検索システム、エージェントシステムなどについての理解を深める。本講義では、様々な計算機システムに関する基本的な概念やアルゴリズムを習得し、これらをソフトウェア開発や研究に応用できる知識と技術を学習する。そして、受講生が取り組む博士論文の研究課題に関連した資料の調査と研究を行う。
(9360093) 情報学研究法 「情報教育研究法」 辰己 丈夫 教授	2	情報科学、情報工学、情報倫理学、数学などを学問的背景として、現在の情報基盤・コンピュータ・ネットワークは成立している。情報教育学は、そのような現在の情報社会における、広い意味での知識伝達を対象としている学問である。この講義では、特に、中等教育・高等教育(中学校・高等学校・大学)における学校での情報教育や、企業内教育などの現場における情報教育について、主に、プログラミング教育、情報セキュリティ教育、情報倫理教育の領域において受講生が取り組む博士研究の項目を重点的に取り上げ、講究する。
(9360107) 情報学研究法 「教育・学習システム 工学研究法」 辻 靖彦 准教授	2	教育や学習におけるデータベース等を用いたシステムの開発やその活用及び、得られたデータの評価分析方法に関して基本的な概念、研究方法や研究動向、教育実践について学習する。そのために、文献購読を行い議論し合うことを通じて最新の研究知見と研究動向を理解し、研究方法を主体的に習得する。後半では本科目の内容及び各自の研究テーマと関連した課題を設定し、先行研究、課題の解決方法や研究アプローチについて発表を行う。これらの学修を通じて博士論文における自律的な研究活動の基盤を構築する。
(9360115) 情報学研究法 「メディア教育研究法」 中川 一史 教授	2	本授業では、メディア教育において基盤となる理論や研究動向・研究方法・学校や授業におけるICT活用実態等について各回のテーマに沿って学ぶ。特に、初等中等教育におけるタブレット端末やデジタル教科書の活用などのICT活用、情報活用能力など、教育の情報化に関する内容を視野に入れながら、研究における課題の設定や問題解決の方法、システムの設計や開発について紹介する。受講生が取り組む研究テーマに関連する基礎知識の習得を目標とする。
(9360123) 情報学研究法 「ソフトウェア工学 研究法」 中谷 多哉子 教授	2	ソフトウェア開発は、近年大きな転換期を迎えている。従来は大規模・複雑化するソフトウェア開発への対処が重大な問題であったが、これからは、解くべき問題が大規模・複雑化するといった時代になりつつある。このような時代背景のもとで、問題をソフトウェアで解決するときに必要な知識と技術を学習する。また、より実際的な研究を行うための素地を習得するために、受講生には、ケーススタディの基本的な枠組みに基づいて、ケーススタディの計画立案から実施と評価までの一連のプロセスを理解する。

情報学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9360131) 情報学研究法 「メディア情報質評価 研究法」 仁科 エミ 教授	2	音や映像など視聴覚メディア情報の情報構造を分析する手法、および、その質的違いが人間にもたらす生理的・心理的・行動的影響を捉え評価する手法を、実際の研究例を通して学ぶ。それらの多様な手法を踏まえて、学生が取り組む博士論文の研究課題に適した手法を選択・構築するための資料の調査と研究を行う。
(9360140) 情報学研究法 「情報環境応用研究法」 葉田 善章 准教授	2	情報工学において基盤となる理論や研究動向・研究方法について、モノのインターネットに代表される環境を構築する分野を中心に学ぶ。ネットワークにつながるさまざまな端末により構成されるシステムに関し、研究を進める上での課題の設定や問題解決の方法、システムの設計や開発、得られたデータの活用について紹介する。受講生が取り組む研究テーマに関連する基礎知識の習得を目標とする。
(9360158) 情報学研究法 「障がい者支援研究法」 広瀬 洋子 教授	2	障害についての概念の変遷と現状を、それを取り巻く文化と関連づけて考察する。また多様な障害の特性への理解を深め、ICTを活用した情報取得の方法についての発展の歴史を知る。障害者支援システムや、アクセシビリティ、ユニバーサルデザインなどについて、放送大学の授業テキストよりもさらに詳細な内外の文献を読み込むと同時に、様々な実例を通して、最新の研究動向を学ぶ。
(9360166) 情報学研究法 「情報デザイン研究法」 伏見 清香 教授	2	情報デザイン研究法では、情報伝達表現を使用したコミュニケーションデザインに必要な幅広い手法を学び、その歴史を踏まえた表現のプロセスを理解する。また、人間中心設計を踏まえたデザインに向け、市場調査やユーザー調査の手法を学ぶ。さらに、受講生が取り組む博士論文の研究課題に向け、関連事例の調査やデザインの実践、実証実験等、問題解決へのアプローチを探る。
(9360174) 情報学研究法 「情報行動研究法」 三輪 眞木子 特任教授	2	情報探索、情報獲得、情報利用、情報拒否等日常の活動に埋め込まれた人間の情報行動を文脈に沿って抽出し、モデルや理論を構築し、情報システムや情報サービスの設計・改善に活用する方法を学ぶ。質問紙法、インタビュー法、観察法、会話分析法、日記法、Qソート、順序ツリー法、現象学、エスノメソドロジー、アクティビティ理論、SD法等の様々な方法の信頼性・妥当性を考察し、受講者の研究に適用可能な研究手法を選定し、研究設計を指導する。
(9360182) 情報学研究法 「学習支援システム 研究法」 森本 容介 教授	2	学習のための情報システムについて、体系的に学ぶ。独習システム、協調学習システム、学習情報検索システム、教材や学習履歴の管理システムなど、多様な学習支援システムの歴史と現状を知る。情報システムの開発技術、学習の分析、関連する標準規格、運営・支援組織なども取り扱う。また、学習支援システムに関する文献や標準規格の仕様書などを読み、研究動向や最新の状況を学ぶ。

情報学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9360190) 情報学研究法 「マルチメディア情報処理 研究法」 柳沼 良知 教授	2	マルチメディア情報処理の最新の理論や研究動向、研究方法等を学ぶことを目的とする。基礎的な理論から始まり、データ管理構造や情報探索手法、情報パターン の分析・認識手法、大規模データの処理・分析手法などについて学ぶ。博士論文で取り組もうとしている研究テーマ・課題に関連する事柄を体系的に学ぶ ことで、研究テーマ・課題の意義を明確化するとともに、自立的に研究を進めるた めの素地を習得できるようにする。
(9360204) 情報学研究法 「教育・学習情報分析 研究法」 山田 恒夫 教授	2	教育機関にはさまざまな情報システムが導入され、学習者の学習過程データや学 習成果(ポートフォリオ)が電子的に蓄積されている。生涯学習者の情報端末は 学習端末でもあり、学習に必要な情報や知識(学習材)が構築されるとともに、学 習ログデータが記録される。本授業では、最新の学習科学の理論や知見を知ると ともに、分散する教育・学習情報を結合し分析する方法、学習過程の解析と教育 評価を関連付ける方法、エコシステムとしての学習情報基盤とその相互運用性 のための国際標準化について学ぶ。後半は、利用可能なデータセットをもとに、 オープンソースの学習解析(あるいは機関研究)ツールを用いて、実践的な演習 を行う。

自然科学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9350012) 生命・物質研究法 (1) 「生物科学研究法」 二河 成男 教授	2	<p>生物学に関する研究を行う上でその背景となる基本原理や、対象生物の遺伝的特性、実験方法の理解は、不可欠である。しかし、それらは、研究対象ごとに大きく異なることが、生物学の特徴である。本講では、各自の研究対象に沿って、基本原理、遺伝的特性、実験方法の把握を行う。実験方法については、過去の先行研究の理解を中心とする。また、分野にかかわらず、研究対象のゲノム情報の利用は、今後の研究活動において不可欠な要素であるので、その演習も行う。基本的に課題とする文献は英語文献とする。</p>
(9350020) 生命・物質研究法 (2) 「地球惑星科学研究法」 大森 聡一 准教授	2	<p>地球惑星科学は、基礎科学、テクノロジー、野外調査など、複合的な体系の上に成り立っている。与えられた研究テーマを推進するだけでなく、みずから研究テーマを開拓するためには、その背景となる体系の理解が必要である。この演習では、最新の研究論文から出発して、引用文献や基礎的な教科書をたどりながら、研究の構造を体系的に解析する訓練を行い、研究のための基礎体力を習得し視野を拡大する。演習の終わりには、新たな研究テーマを発掘するための議論と演習を行う。</p>
(9350039) 生命・物質研究法 (3) 「物理学研究法」 岸根 順一郎 教授	2	<p>物理学は、宇宙から素粒子まで、極めて多様な内容を一貫して扱うことが可能な学問分野である。一方で、各研究対象の振る舞いは多様であるため、研究分野は細分化され、さらに理論研究と実験研究も分業化される傾向にある。したがって、みずから研究テーマを開拓し推進するためには、細分化された個別の事象を体系化して理解することが必要である。この演習では、最新の研究論文から出発して、引用文献や基礎的な教科書をたどりながら、研究の構造を体系的に解析する訓練を行い、研究のための基礎体力を習得し視野を拡大する。</p>
(9350047) 生命・物質研究法 (4) 「化学研究法」 安池 智一 教授	2	<p>化学は分子を基盤としたものの見方に立脚する学問である。近年様々な学問分野において分子論に基づくアプローチが模索され、化学の対象は拡がりその方法論も大きな変革を遂げている。本講では、そのような化学の新しい側面を視野に入れ、分子論的アプローチに必要な知識を習得し、実践の基礎を学ぶことをその目的とする。個々の分子の性質の理解に必要な量子力学、タンパク質などの巨大分子、分子集合体の理解に必要な統計熱力学について学び、近年の分子理論の実践に欠かせない計算機シミュレーションについても、計算機の運用から計算機実験の実際まで、演習を通じてその基盤技術の習得を目指す。また、分子分光法を中心とした実験手法についてもその理論的基礎および測定の実際を学ぶことで、理論と実験の両面から分子を基盤としたものの見方、考え方の獲得を目指す。</p>
(9350110) 生命・物質研究法 (5) 「生態環境研究法」 加藤 和弘 教授	2	<p>生態環境科学に関する研究を行う上で、その背景となる基本原理や、生態系及び生物群集についての調査法、調査結果の解析法の理解は、不可欠である。しかしそれらは、研究対象生物や対象となる空間、地域によって大きく異なる。本講では、各自の研究対象に沿って、生物群集や個体群の特性の把握、対象地の自然立地条件の理解、主要な生物間相互作用の検討、適切な調査研究及び分析方法の考察を行う。調査研究あるいは分析方法については、先行研究で用いられたものの理解を中心とし、他分野の関連手法の検討も含める。データの多変量解析法の利用は、今後の研究活動においてしばしば重要な役割を果たし得るので、その演習も行う。</p>

自然科学プログラム

(科目コード) 科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
(9350128) 生命・物質研究法 (6) 「分子科学研究法」 橋本 健朗 教授	2	分子科学研究では、何をやるかという課題設定だけでなく、どうやって解決するかという研究手法が重要である。現在利用できる手法や理論の限界や問題点の克服なしに、解決できない重要課題も多数ある。既存研究手法を活用するにせよ、あるいは方法に未解決問題を抱える課題に挑戦するにせよ、研究手法を原理から理解することが不可欠である。本講義では、自らの具体的研究課題に沿って、活用する研究手法、挑戦する課題を深く理解し、知識を課題解決に繋げる術を学ぶ。この過程を通じて、必要となる十分な英語文献購読力、発表力、構想力を身につける。
(9350136) 生命・物質研究法 (7) 「原子核物理学研究法」 松井 哲男 教授	2	現代の核物理学の研究の最前線を考究し、研究に必要な核物理学の知識と方法を学ぶ。特に、これまでの核子多体系としての原子核でなく、クォークとその力学（量子色力学）から原子核の成り立ちや、極限状態での存在形態、その実験的検証について、最新の知識と方法を学ぶ。
(9350144) 生命・物質研究法 (8) 「宇宙物理学研究法」 谷口 義明 教授	2	宇宙物理学に関連する専門分野の最先端の研究成果や未解決の問題追求の現状について、研究の動機や目的、対象へのアプローチの方法といった、専門分野にとらわれない根源的な部分についての議論を通して、研究遂行に必要な能力を養成する。特に、宇宙物理学は物理学、化学、数学などの学際的な研究分野であるため、幅広い知識体系の習得が必須となる。その一方で、宇宙物理学特有の概念があり、より専門性の高い分野でもある。他分野との共通点と相違点を把握することによって、より柔軟な思考力と創造力を養う。授業の題材については、担当講師が受講生に応じて適宜設定する。
(9350055) 数理・情報研究法 (1) 「数理論理学研究法」 隈部 正博 教授	2	数学は近年、抽象性と厳密な論理性を追求した結果、自然科学のみならず様々な分野に応用されている。同時に純粋数学として、それ自身の理論の完全なる解明、そして新しい理論の構築を目指して、現在でも発展し続けている。このような多岐にわたる数学の分野において、論理的観点から、学生の研究課題を考慮しつつ講義する。先端分野で研究活動を始められるよう指導する。
(9350063) 数理・情報研究法 (2) 「情報学研究法」 柳沼 良知 教授	2	数理情報研究において基盤となるメディア情報処理の最新の理論や研究動向、研究方法等を学ぶことを目的とする。情報の基礎的な理論から始まり、データ管理構造や情報探索手法、メディア情報処理の手法や動向、情報パターンの分析・認識手法、大規模データの処理・分析手法などについて学ぶ。博士論文で取り組もうとしている研究テーマ・課題に関連する事柄を体系的に学ぶことで、研究テーマ・課題の意義を明確化するとともに、自立的に研究を進めるための素地を習得できるようにする。
(9350101) 数理・情報研究法 (6) 「数理解析学研究法」 石崎 克也 教授	2	近年、数学をひとつの解決法とする自然科学・社会科学の諸問題は、分野を問わずに広く研究対象となっている。この授業では、数理解析学の応用として、このような数理科学モデルを取り扱う。数理解析学における既知の理論の理解、問題解決のための新たな理論の発見、求められている数理科学モデルの構築、数式処理ソフトによるモデルの可視化など学習し、主体的に研究できる能力を習得できるように指導する。また、広い視野から分野横断的な考察と新研究領域の発掘を行い、研究成果を大域的に判断し、世界に発信できる能力を養う。



〒 261-8586 千葉県美浜区若葉 2-11

TEL. 043-276-5111 (総合受付)

<http://www.ouj.ac.jp>